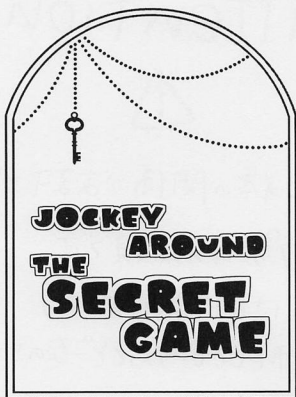


内緒の

勝負





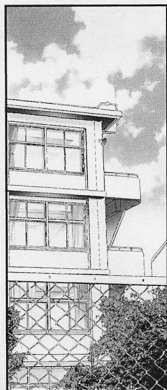
内緒の勝負

Attention!



- すでに1体の関係があるキ×学宇善
- コンプラガン無視です
- うずいさんは悪い大人です
- 教師としてもちょっとどーなのと
いう感じです
- そもそもひとえに善逸が好きすぎる
ゆえです
- 善逸が千ヨロすぎます (通常営業)

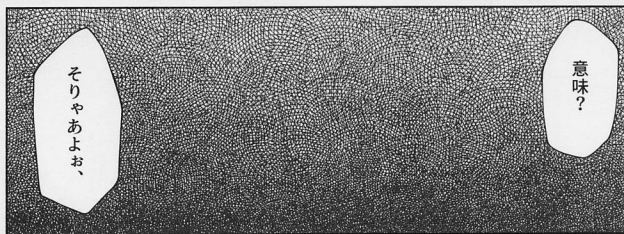
以上、気にならない方のみどうぞっ



なんでこんなもんが
ここにあんのよ!!

なんなの! これ!!





理由はひとつしか
ねーだろ？

!!

ひえっ

ぎぎっ

コラーーー!!!
何言っちゃってんのアンタ!!!

そのえっちな顔
やめなさいよ学校では!!
今すぐしまえ!!

デケエ声出すなよ
ここが離れた棟だからつつても
さすがに誰かに聞かれるわ

それと

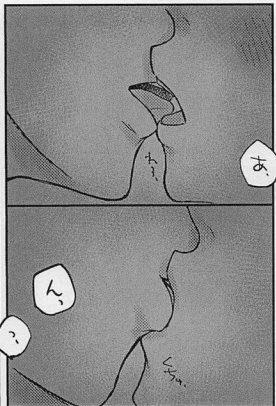
このえっちな顔、
好きだろうが
善逸くんは？

ちゃっ

あ

ぞくぞく……







その割には

…ふうん？



こっちの方は

乗り気になってるみてえだけど？

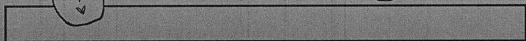
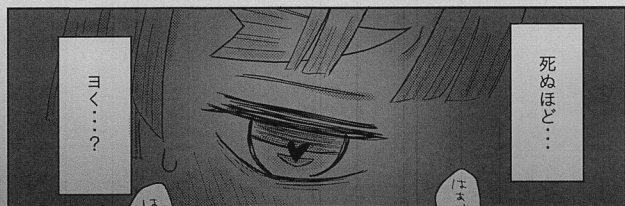
身体は素直だよなあ、
相変わらず

あ、

す、

ゴキウ

!!
ーいんまじ



[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]



…だいぶほぐれんのが
早えな…

お前タベ1人でシた？

あ

びし

う

ん

ん

ぶ

もうよさそうだな、

すぽ。

ちよつとここじゃ
高さが合わねえな

この台に乗れるか、
善逸

もう何も考えられなく
なっちゃった？

いいぜ、そのまま
気持ちよくなっとけよ
声だけ気をつけてな、

はい

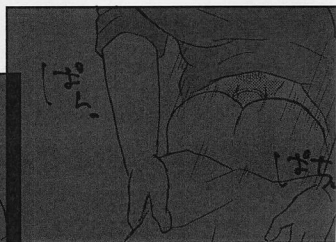
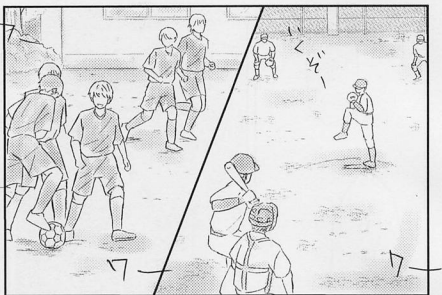
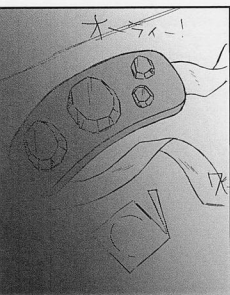
挿れるぞ、

ぬち。

ん

ぐん









さて...

そろそろ頃合か...



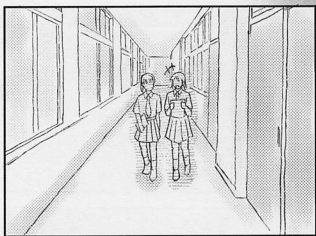
誰か来る……!

う……

……宇髄さん、

もう聞こえるか……

流石だな

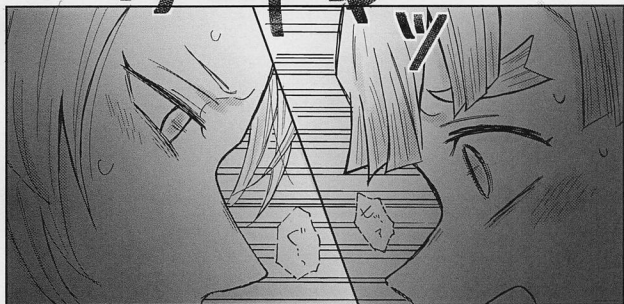
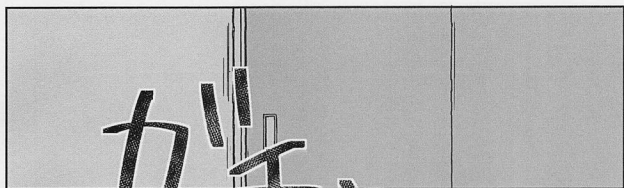


失礼します



準備室入るの
初めですか！

うすい先生
いるかなー



正直ここまでとはな

あー！

すげえキモい...

だが全て俺の譜面通り

——この勝負、

俺の勝ちだな

宇髄天元の

「内緒の勝負」

俺の恋人

我妻善逸は

普段は明るくて
いつも騒がしくしているが

その内面はとても繊細で
そしてかなりの臆病者だ



俺との付き合いを何としても
隠し通そうと必死で



校内では何かと距離を
取ろうとしているが



まあそれも2人きりの時との
ギャップがあつて面白くはあつたし



なんだかんだ言つて俺のところに
手伝いには来てくれてるので



別に不満がある訳じゃあなかったが

俺はな、気付いてんだよ、
善逸



ホントお前は素直じゃ
ねえよな



季節ももうすぐ夏の終わり

善逸と校内で会う日々も
もう残り僅か

だからここに残したかった

「恋人」としてのお前の姿、

俺にしか見せない表情、
俺にしか聞かせない甘い声

お前だって同じだろ、

そういう顔してるもんな、
分かってんだよ





時折聞こえてきてんだよ



欲望の音が

わー...
わー...

「触れ合いたい」の



お前の奥底に隠してる欲望

俺が全部さらけ出させてやる

どうせならト派手にいこうぜ

だから俺はひとつ勝負に出してみることにした

美術準備室の棚のわざと分かるような位置にゴムとローションを隠して

善逸に棚の片付けを手伝わせた

丁度いいタイミングになるような時間を指定して

じーローの時に提出を準備室にいつから

はあ!!

他の生徒に課題の提出を

その2つが

俺の仕掛けた「勝負」

へー!!

うずいせーせー

いませんかー？



思った以上の成果だな

いつも以上の反応

身体が喜んでるのが
よく分かる

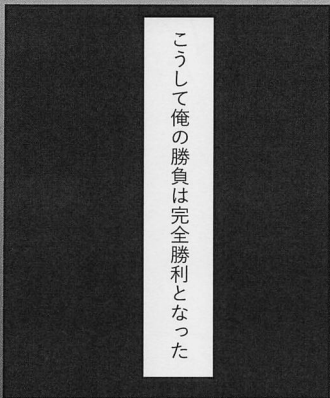
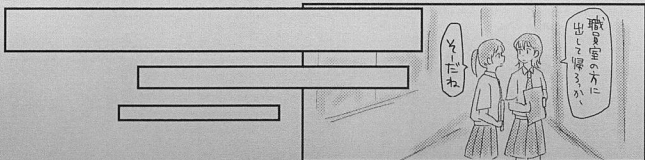


：：だけどまあ、俺も正直
そろそろヤベエし









そして暫くは美術準備室にも
近寄らなくなったが



やがてまた善逸の方から
進んで顔を出すようになった



「いつまでも怒っててもしょうがないしさ」

そう言って俯いていたが

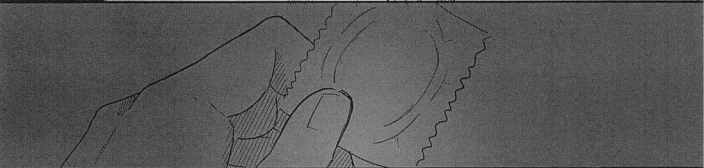


あれ以来ろくに触れ合いもない
日々をお互い過ごしてたから



そろそろ来る頃じゃないかと
俺は思ってたぜ、善逸





次の勝負を挑むのは

俺の方が、それとも――

あとがき

ぐうです！この本を手を取っていただきありがとうございます！

今回のお話は、4年ちょっと前、私が宇善の沼に落ち、そして絵を描き始めたばかりの頃、まだ漫画を描くという事が出来なかった時に(今も自信を持って「漫画描けます！」とは言い難いんですが…)、妄想した話を小説として当時pixivにアップしていたネタで、4年の時を経てようやく漫画として描く事が出来ました。(4年前の私——！やっと漫画になったよ！)

「ザ・薄い本」的な明るくえっちな内容を目指して描いていくつもりでしたが、終わってみれば宇髄さんが画策しすぎて終盤の方はただの明るくえっちな内容とはちょっと離れた感じになってしまいました(汗)

久しぶりにR18な内容に手をつけた事もあって色々と頭が回っていません(笑)、所々無理やり進めた感が否めないのも、そのあたりは何卒おおらかなお気持ちで見えていただけると嬉しいです…！！

コンプラガン無視、他人を利用、など宇髄さんがちょっとアレな感じになってしまいましたが、きっと宇髄さんも善逸くんが卒業したらいつも美術準備室に呼び出してわちゃわちゃしてた日々がなくなると思うものすごく寂しくなると思うので、在学中にもうやるだけやっちゃいな！という気持ちで描きました(笑)ぐうは本来コンプラ遵守のちゃんとした大人な宇髄さんが好みなので、やっちゃまう系宇髄さんを描くのはきっとこれが最後なはず…です…たぶん。なにはともあれ最後まで、そして毎回おなじみのクソ長いあとがきまで読んでいただき本当にありがとうございます！

鬼滅はアニメもまだ続きますし、私はきっと、ずっと宇善を描いたり愛でたりしていく所存ですので、これからもどうぞよろしく願いいたしますm(_ _)m

2024年 6月 ぐう



発行日：2024年6月30日

発行者：Melty Amber/ぐう

Email：gucham.fanfic@gmail.com

X (旧Twitter)：@gucham_kmt

Printed by：ホープソーワン様

マシュマロリンクです
もし良ければひとことだけでも
感想とか頂けると嬉しいです…！



※本作は成人指定の内容です！未成年の方の目に触れないよう十分にご注意ください！
フリマアプリ、オークション等での転売を禁じます。何か問題が起きた時は責任の一部を担って
もらいますからねっ！！本当ですよ！！作り手も買い手も皆で同人文化を守っていきましょう！

The background is a soft pink with yellow bokeh circles. There are several stars in pink, yellow, and dark purple. Dashed lines in pink and yellow, along with yellow paper clip outlines, are scattered across the page.

Tengen Uzui

*
Zenitsu Agatsuma

Kimetsu no yaiba
Unofficial Fanbook